

氷川神社  
社報 第三十一号

# 武蔵一宮



車袋草子

古

草子

茶

新

山車・神輿



前：神輿  
後：山車  
東町1丁目



吉敷町



吉敷町



東町2丁目



下町明美会



下町明美会



高鼻町1丁目



浅間町



浅間町



高鼻町2丁目



仲町



仲町



例祭  
齋行

八月一日午前十時より例祭を齋行致しました。畏き辺りより勅使として掌典の前田章利様御参向のもと厳肅に行い、東游あずまあそびの奉奏を頂き、皇室の弥栄と氏子崇敬者の御多幸を祈念致しました。  
神社本庁統理の御名代に神社本庁総長・石清水八幡宮の田中恆清宮司（京都府）、埼玉県神社庁庁長・高麗神社の高麗文康宮司、大野隆司総代会長はじめ氏子総代、清水勇人さいたま市長、県内神職、招待した崇敬者など約二百五十名の御参列を頂きました。勅使奉迎のため、三の鳥居内に町内山車神輿が三十四基参集致しました。

雪洞書画奉納御礼

例祭に際し左記の皆様より雪洞書画の奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。（順不同敬称略）

- 堀澤 節
- 山田 郁子
- 小林 瞳
- 牧野 安甫
- 飯野 直紀
- 牧田 範男
- 加藤 正
- 薮島 雲外
- 金田 石城
- 山北 知子
- 清水 昌子
- 島崎 英子
- 吉澤 公子
- 吉田 ゆき江
- 竹市 和昭

参集した



植竹町1丁目



桜木町2丁目1区



大門町



大門町



大門町



大成町1丁目



桜木町2丁目2区



宮町4丁目



宮町1丁目



宮町自治会連合



建和睦会



桜木町2丁目3区



土手町3丁目



土手町2丁目



土手町1丁目



堀の内町3丁目



堀の内町3丁目



堀の内町2丁目



堀の内町1丁目



堀の内町1丁目

西瓜

(有)渡辺青果店

藤野泰孝

本庄泰孝

鎌田容理子

田中潤

吉田由香里

高木洋明

篠竹静子

貴田容子

大島文子

李 明美

(株)宮本卯之助商店

丸三屋

葵原信祐

saintarrowone

みずほ証券(株)大宮支店

支店長 並木謙司

(株)榮太樓總本舗

代表取締役 石田和美

サン・アドニス(有)

代表取締役 辻林愛次郎

(株)和泉空調設備

東宮睦 清水清磨

(株)電成社

代表取締役 池田一義

さいたま商工会議所

会頭 長堀和正

(株)武蔵野銀行

頭取 長堀和正

清酒

例祭に際し左記の皆様より奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。(順不同敬称略)

奉納御礼



土屋

祭事暦

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穡と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

七月 一日 月次祭

十五日 献詠祭(兼題 木精)

三十一日 例祭前日祭

八月 一日 例祭

二日 神幸祭

十五日 献詠祭(兼題 例祭)

埼玉縣護國神社みたま祭

九月 一日 月次祭

十五日 献詠祭(兼題 梨)

敬老祭

二十三日 秋季皇霊祭遙拝式

秋分祭

神幸祭齋行



橋上祭 献饌



神幸祭 還御

〔武州一宮氷川大明神年中行事古法写〕



〔氷川女体宮御神鏡〕



写真提供：さいたま市立博物館

八月二日午後三時、神幸祭を齋行致しました。旧神領地の六町内(堀の内、土手、大成、上落合、新開、東大成)の氏子有志、また氏子青年会あわせ約百名の皆様に興丁奉仕を頂き神輿渡御、神橋にて橋上祭を行いました。

江戸期の神幸祭

神幸祭は、江戸時代までは年間に五度ある大祭礼の一つで、六月十五日に橋上御幸之祭として行われていました。当時は本殿が男体宮、女体宮、簸王子宮に分かれておりました。

前日の六月十四日に男体宮の神輿を男体宮と女体宮の間にある仮殿に移動させ、神秘神事を行うとともに、女体宮で八咫の御鏡の下に小麦莖で編んだ八重畳を敷き替えるなどの神事を行い、十五日に仮殿から神輿と神宝を橋上に移して、そこで神事を齋行、終わると仮殿に還御するというものでした。

社頭往来

全国氏子青年協議会大会

七月六日、全国氏子青年協議会の第六十二回大会が青森県で行われ、当社氏子青年会から十四名が参加致しました。大会前には蕪島神社を正式参拝致しました。



鳥居奉納奉告祭



瀧澤知子様

例祭前清掃奉仕

七月二十五日、午前九時より例祭前の神域清掃奉仕が行われました。本年の参加者は当番町内である上小町、新開の氏子の他、氏子青年会、敬神婦人会、八雲睦会あわせ約百名の皆様にも本殿周辺や楼門、廻廊、摂末社、勅使館等の清掃を行って頂きました。



特別紙朱印「例祭齋行記念」



七月二十七日より特別紙朱印「例祭齋行記念」の授与を開始、八月三日に終了致しました。例祭限定朱印紙は切り絵使用、2ページ分使用のものでした。

大宮アルディージャ VENTUS 必勝祈願

八月四日、大宮アルディージャ VENTUS が 2024-25 シーズンの必勝祈願を行いました。代表取締役社長佐野秀彦様、フットボール本部長原博実様、柳井里奈監督、乗松瑠華キャプテンはじめ選手・スタッフ一同が参加し、今シーズンの飛躍を祈願しました。



写真提供：大宮アルディージャ

伊奈学園中学校職場体験

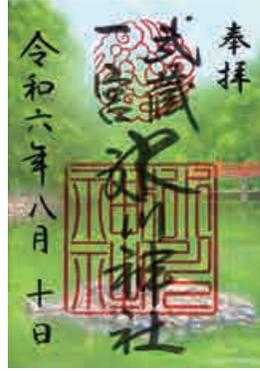
七月九日から十一日まで伊奈学園中学校の中学生職場体験授業で女子生徒二名を受け入れました。境内清掃や御札の授与の他、最終日には舞殿にて豊栄の舞を行いました。



北澤一哉御一家様

**特別紙朱印「氷川の縁起亀」**

八月十日より画家のはせがわいさお氏デザインの特別紙朱印「氷川の縁起亀」の授与を開始、八月二十五日に終了致しました。



**助勤説明会**

八月十七日、令和七年正月に御奉仕頂く助勤奉仕の希望者に向け説明会を実施致しました。



**模擬挙式**

八月十八日、氷川神社結婚式御用部では総合フェアとして事前申込者を対象に、儀式殿で模擬挙式を、社務所にてアイテム展示会と新規相談会を執り行いました。新規相談会のみは七月と九月にも行っております。



**東武アーバンパークライン×沿線五社開運御縁線巡り**

九月一日より東武アーバンパークライン様主催の沿線五社

開運御縁線巡りを開始致しました。当社、久伊豆神社(さいたま市岩槻区)、櫻木神社(千葉県野田市)、柏神社(千葉県柏市)、御嶽神社(千葉県船橋市)の五社とそれぞれに対応する五駅あわせて十カ所を巡る企画で十一月三十日まで受け付けています。



**吟道奉賛会**



九月八日、正式参拝の後、呉竹荘にて日本吟道奉賛会会員により第四十七回吟詠剣詩舞奉納

大会が行われました。

**柳生心眼流柳正館奉納演武**

九月八日、正式参拝の後、柳生心眼流兵法柳正館会員により演武が奉納されました。



**彩の獅子奉納**

九月八日、彩の獅子保存会の会員により獅子舞が奉納されました。



### さいたま市職場体験

九月十日から十二日までさいたま市中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」で大宮土呂中学校の生徒四名を受け入れました。境内清掃や御札の授与の他、最終日には舞殿にて豊栄の舞を行いました。



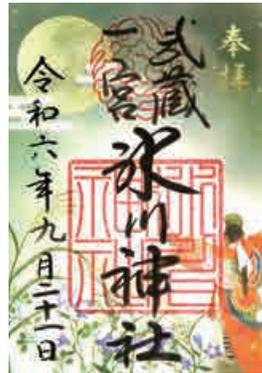
### 江戸千家不白会埼玉支部茶会

九月十五日、勅使館及び呉竹荘にて江戸千家不白会埼玉支部設立六十周年記念茶会が開催され全国から約三百名の参加者がありました。



### 特別紙朱印「満月と迦陵頻」

九月二十一日より特別紙朱印「満月と迦陵頻」の授与を開始致しました。



### 表千家献茶式

九月二十二日、表千家同門会埼玉県支部献茶奉賛会による献茶式が執り行われ、左海大宗匠の御奉仕にてご神水による濃茶薄茶が神前に点じられました。参加者は約二百五十名でございました。



### 全国敬神婦人会大会



第七十四回全国敬神婦人会北海道大会の開催にあたり、九月二十六日から二十八日までの日程で研修旅行を実施、当社敬神

婦人会より十三名が参加、また大会前に北海道神宮を正式参拝致しました。

### 埼玉県茶道協会秋の茶会

九月二十九日、勅使館及び呉竹荘にて埼玉県茶道協会の秋の茶会が開催され、さいたま市長清水勇人様他、県内外から約二百五十名の参加者がありました。

茶席 裏千家 真鍋宗正

庸軒流 蒼軒会



昭和天皇行幸記念と新紙幣発行



記念スタンプ(上)  
行幸記念碑(左)  
記念絵葉書(下)



『行幸記念寫真帖』より



本年は昭和天皇が昭和九年十一月十八日に行幸、当社を御親拝されてから九十年にあたります。当時の大宮郵便局は大宮への行幸を記念して特製スタンプを作成していました。のちに、氷川公園(現大宮公園)内には行幸記念碑が建立されました。

昭和天皇は明治四十一年の学習院初等科の遠足で初めて氷川神社を参拝されました。その際に秩父宮殿下と稚松をお手植えされますが、十二年前に嘉仁皇太子殿下(大正天皇)が同じところに稚松をお手植えされた事から「三殿下御手植ノ松」と呼ばれ慶事の場所となりました。



奉祝大祭後、退下する会長以下顧問  
『官幣大社氷川神社御親祭  
五十年祝祭記念帳』より

令和六年七月三日、二十年ぶりに新紙幣が発行されました。一万円札は五〇〇もの企業設立などに関わり「日本近代社会の創造者」といわれた渋沢栄一、五千円札は女性の地位向上と女子教育に尽力した教育家の津田梅子、千円札は破傷風等伝染病の予防と治療に貢献した細菌学者で「近代日本医学の父」と呼ばれた北里柴三郎です。

なかでも、渋沢栄一は埼玉県深谷出身というだけでなく、当社で実施した境内整備事業に関わりがあります。参道の三の鳥居から神橋までの敷石は、渋沢栄一や大隈重信らが筆頭となり奉納されたものです。

大正六年に行われた明治天皇御親祭五十年祝祭には、渋沢栄一も顧問役員として名を連ねておりました。境内の天津神社近くに建つ石鳥居敷石寄附録は大正二年のもので、大正元年に建立の石鳥居と敷石の記念碑となります。また、隣には大鳥居と敷石の記念碑も立っており、どちらも奉祝祭を前にした参道と境内の整備事業の一環として行われたと想像できます。尚、五十年祝祭は一週間にわたって行われ、神社には十五万人の参詣がありました。

曆

現在、日本で用いられている曆は太陽曆で、明治五年の改曆の布告により太陰曆から変更になりました。古来、曆を定めるのは天子のなす事とされ官曆は朝廷が定め、江戸期に渋川春海（しぶかわしゅんかい／はるみ）が貞享曆を案出してからは幕府の天文方が制定し、宝曆曆、寛政曆、天保曆、明治の改曆に至ります。我が国における最古の曆は静岡県浜名郡可美村の城山遺跡から出土した木簡に記された天平元年（七二九）のものです。

朝廷や貴族社会から一般にも曆が普及すると地方曆が発達してきます。静岡県三島市の三島神社の下社家の河合家が作った三島曆には、現存する最古の曆として永享九年（一四三七）のもものが残っています。この三島曆の他の地方曆としては鹿島神宮の鹿島曆や水川神社の武州大宮曆、会津若松の諏訪神社の会津曆などがあり、いずれもそれぞれの地域社会の中で大社が中心となり編曆されてきました。

江戸時代に全国津々浦々に普及したのは伊勢曆で、伊勢神宮（神宮が正式名称）の御師によって大麻とともに土産として信者たちのもとに配布されたのを契機として広まり、全国の曆の約4割を占めるまでになりました。

明治の改曆前には、様々な曆が流布していると混乱に繋がるという事で、曆の販売は頒曆商家にのみ専売権が付与されました。しかし新しい曆はなかなか順応されず、明治十六年にその専売権が切れると伊勢神宮が代わりに曆を頒布するようになります。

現在のように曆が自由化されるのは昭和二十一年からです。伊勢神宮の神宮神部署が最後に発行したのは「昭和二十一年略本曆」で、昭和二十二年以降は名称も「神宮曆」と変わり神宮司庁が編纂し、神社本庁が頒布をしています。

江戸幕府の学問所である昌平黌が編纂した『新編武蔵風土記稿』には天正十年の閏月の取り扱いで、大宮曆と三島曆との間に相違があり、三島曆の方が正しいとされ、大宮曆は停止されたとあります。これは大宮曆と三島曆だけの事ではなく、関東曆と京曆で違いがあったという事で、三島曆は関東曆、大宮曆は京曆だったのではないかと考えられています。

戦国期に発行を停止されてしまった大宮曆ですが、昭和二十一年以降は曆の発行が可能になり、現在は神社本庁の「神宮曆」とともに水川神社発行の「水川曆」を札所頒布してあります。

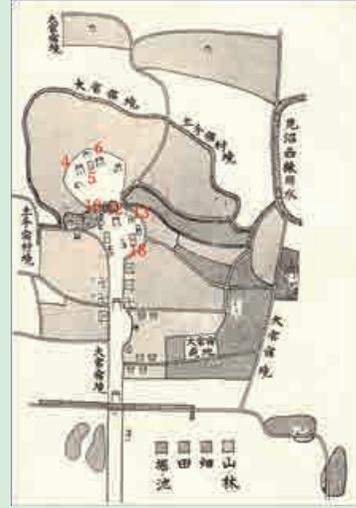
基本的な作りは変わりませんが内容を細かく見ると、特に欄外は農繁行事や農葉に関する知識など、一般の生活に根差した内容となっており、現在の冠婚葬祭や年中行事、時季の自然を再確認するものとは大きく変わっています。もともと、人々の生活に根差していた民間曆は、時代を反映してこれからも発行されていきます。

〔参考〕曆と祭事 日本民俗文化体系9  
 〔参考〕大宮の郷土史31号大宮曆と北原村の曆新田 沼田尚道



昭和35年水川曆 資料提供：宮内正勝氏

『中山道大宮紀行』と現代に残る社殿



一、氷川神社付近見取略図 (天保7年8月絵図・西角井家文書第4824号を基に作図) 大宮市史 資料編一 付録634ページより

1	寿能	荷社	20	神主	岩井家
2	寿能	天神社	21	神主(東)	角井家
3	五山	祇社	22	観音	音寺
4	男	鉢宮	23	大聖	院
5	御	飯殿	24	宝積	院
6	女	鉢宮	25	神主(西)	角井家
7	愛	鉢宮	26	社役人	井上家
8	門	客社	27	社役人	磯部家
9	宗	像社	28	社役人	杉山家
10	御	橋(神橋)	29	下社	人の家
11	天	王神	30	下社	人の家
12	火	王子	31	社役人	井上家
13	観	音堂(本地堂)	32	社役人	井上家
14	稲	荷社	33	石	橋社
15	神	楽所	34	天	神社
16	石	住留	35	神主	岩井家及び地
17	太	々吉	36	神主(東)	角井家墓地
18	太	々楽	37	神主(西)	角井家墓地
19	神	供所			

(4)・女性(6)の両社がある。各々二間四方ほどの大ききで、銅で屋根を葺いてある。前庭は千坪ほどの広さがあり、四方は木立に囲まれて風が通らない。」と境内の描写がされています。

この「本社」は大己貴命を祀る簸王子社、「男体」は須佐之男命を祀る男体社、「女体」は稲田姫命を祀る女体社で三社を総称し氷川神社となっていました。後に合祀され本殿は一社となりますが、女体社は御嶽神社社殿、簸王子社は天津神社社殿として現代まで残っています。

江戸幕府の役人であった村尾嘉陵の著した紀行文『中山道大宮紀行』は文政二年(1819年)当時の神社の様子を知る資料として貴重なものです。

「本社(12)は二間四方ほどで、銅葺き屋根である。その東に瓦葺きの本地観音堂(13)があり、その前には神楽殿(15)がある。」「本社の左裏側、木立の向こうに御手洗(10)の橋を渡っていくと、男体

分社紹介

全国に約二八〇社ある氷川神社の分社、その中から獅子舞の奉納がある分社を御紹介致します。



写真提供：中野区文化振興・多文化共生推進課

(江古田)氷川神社

鎮座地 東京都中野区江古田

三十一三六

獅子舞

都無形民俗文化財。6キロを超える獅子頭が特長。十月第一週の例祭日に奉納。



写真提供：八王子市生涯学習スポーツ部文化財課

(高尾山麓)氷川神社

鎮座地 東京都八王子市

高尾町二二五八

獅子舞

市無形民俗文化財。三人一組で舞を舞う三匹獅子舞。八月第三日曜日に奉納。



写真提供：東久留米市郷土資料室 撮影：松本良一氏

(南沢)氷川神社

鎮座地 東京都東久留米市

南沢三一五八

獅子舞

市無形民俗文化財。太刀・世流布・万歳などの芸能も行う。四年毎の十月中旬に奉納。

七月の奉納献華



豊花智智尚峰  
 理花典智嶋下  
 波林橋高草川  
 岩小高草川  
 松古流池坊  
 藤古流池坊  
 会古流池坊  
 古流池坊  
 草月流

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。  
 (五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・崇教真光大宮準道場
- ・ホアラ・フラ・アカデミー
- ・みずほ証券株式会社
- ・武蔵コーポレーション株式会社

八月の奉納献華



豊花智智尚峰  
 理花典智嶋下  
 波林橋高草川  
 岩小高草川  
 松古流池坊  
 藤古流池坊  
 会古流池坊  
 古流池坊  
 草月流  
 正風流  
 草月流

※九月は台風予報により中止

新規授与品「八雲の鈴」

十二月十日より除災招福のお守り「八雲の鈴」の授与を開始致します。初穂料は千円でございます。



武蔵菊花会菊花展

- 日程 十一月一日(金)～十一月十五日(金)
  - 会場 楼門内廻廊、舞殿
  - 内容 ダルマ、福助、盆養、懸崖、切花、盆栽等
- 武蔵菊花会では新規会員を募集しています。興味をお持ちの方は、菊花展期間中に現場の会員までお声掛け願います。

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

七月 七日

祭典年番会議(例祭)  
 武蔵菊花会菊作り研修会  
 武蔵野銀行  
 例祭前氏子清掃奉仕

十九日

武蔵野銀行

例祭前氏子清掃奉仕

八月 四日

武蔵菊花会菊作り研修会  
 埼玉県神社庁  
 初任神職研修会  
 江戸千家不白会埼玉支部  
 神道婦人会研修  
 埼玉県神社庁  
 秩父支部総代会

十九日

江戸千家不白会埼玉支部

三十日

秩父支部総代会

九月 四日

出雲大社宮司 千家尊祐  
 埼玉県神社庁  
 雅楽・祭祀舞合同研修会

五日

靖国神社宮司 大塚海夫

八日

吟道奉賛会埼玉県本部

十日

柳生心眼流柳正館  
相模原水川神社総代会  
(神奈川)

十四日

岡山県立笠岡高校同窓会  
東京支部

十五日

敬神講社理事会  
氏子総代会並評議員会  
臨時責任役員会

二十日

埼玉県神社庁入間西支部  
神社氏子総代会  
埼玉建築士会

二十一日

武蔵菊花会菊作り研修会

令和7年の厄年(数え年)

数え年		前厄	本厄	後厄	数え年		前厄	本厄	後厄
男の厄	25才	平成14年	平成13年	平成12年	女の厄	19才	平成20年	平成19年	平成18年
男の大厄	42才	昭和60年	昭和59年	昭和58年	女の大厄	33才	平成6年	平成5年	平成4年
男女厄	61才	昭和41年	昭和40年	昭和39年	女の小厄	37才	平成2年	昭和64年 平成元	昭和63年

令和7年の方位除(数え年)

中央(八方除)			北		北 東		南 西				
大正	15年 昭和元	100才		5年	96才		7年	94才		4年	97才
昭和	10年	91才	昭和	14年	87才	昭和	16年	85才	昭和	13年	88才
	19年	82才		23年	78才		25年	76才		22年	79才
	28年	73才		32年	69才		34年	67才		31年	70才
	37年	64才		41年	60才		43年	58才		40年	61才
	46年	55才		48年	51才		52年	49才		49年	52才
	55年	46才		59年	42才		61年	40才		58年	43才
	64年 平成元	37才		5年	33才		7年	31才		4年	34才
平成	10年	28才	平成	14年	24才	平成	16年	22才	平成	13年	25才
	19年	19才		23年	15才		25年	13才		22年	16才
	28年	10才		令和	2年		6才	令和		4年	4才

第三十二号は令和七年一月十五日発行予定です



紅葉特別紙朱印  
10月26日授与開始



大湯祭特別紙朱印(金・銀)  
11月30日授与開始



正月特別紙朱印  
1月1日授与開始



最新のお知らせはホームページ、SNSで御案内致します。正月初詣時期は帳面への記入は行っておりません。特別紙朱印、新規帳面のみの授与となります。



ホームページ



Instagram



エックス (旧Twitter)

発行 令和6年10月15日 発行所 氷川神社社務所

協力 (江古田)氷川神社 (高尾山麓)氷川神社 (南沢)氷川神社

写真協力 宮野信昭 中村写真館 工藤裕之 印刷所 株式会社秀飯舎

さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>